

守谷市教育委員会点検評価意見

点検評価委員 菊 池 修

1 教育委員会

守谷市教育委員会は、守谷市総合計画に基づいて「守谷市の教育目標」を定め、学校現場、家庭、地域社会と連携しながら、新しい時代をたくましく生き抜く人づくりのための施策を着実に展開している。毎月の教育委員会において、事務局と連携しながら真剣な議論を行って、学校教育分野と生涯学習分野における施策を適切に推進している。

学校現場と意見交換を行いながら、小中一貫教育のための「学びのプラン」や「家庭学習のてびき」を作成し、保育所・幼稚園と高校も含めた保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」を始動させ、一貫性をもたせた教育プランの下での学習のあり方をまとめた。

2 学校教育・指導事業

(1) 教育環境の整備・充実

全ての小中学校において、普通教室と特別教室にエアコンが設置され、トイレの洋式化が進められるなど、健康で安全、快適な学習環境づくりが一段と進められた。けやき台中学校のエレベーター棟の増築やバリアフリー化により、障がいのある生徒の教育環境が確保され、保護者などから喜ばれている。

各小学校にタブレットを配備する予算が計上され、ICT教育の推進が期待できる。タブレットや電子黒板などのICT機器は今後ますます普及すると思われるが、ICT環境整備のためには多くの財源が必要となる。学習ソフトやICT機器の選定においては、教員の授業技術に適切に組み合わせることができ、授業の中で効果的に活用できるものを厳選するよう心掛けていただきたい。

(2) 学校教育プラン

●確かな学力の育成

確かな学力の育成のため、各小中学校は指導方法の工夫・改善に向けて校内研修や研究授業を活発に行い、教員の指導力向上を図っている。教科担任制による授業、少人数加配教員や学習支援ティーチャーを活用した少人数教育や習熟度別授業を行い、基礎基本の定着と同時に、個に応じた授業を効果的に進めている。市基礎学力統一テストで児童の学力を把握し、必要に応じて昼休みや放課後に繰り返して補充学習を行って効果を上げている。これら教職員と教育委員会の努力は、茨城県学力診断テストにおいて良好な結果として表れている。

思考力、判断力、表現力を育てるため、各小中学校において様々な形で指導方法が工夫されている。平成25年度は、御所ヶ丘小学校と郷州小学校が各教科の授業において言語活動を充実させることで表現力を高める指導を行い、大きな成果を上げている。

守谷市の小中学校における特別支援教育は、支援方法について全職員による校内研

修を繰り返して実施しながら、意欲的に進められてきた。その熱心な取組は県内外で高く評価されており、平成25年度には御所ヶ丘中学校区が文部科学省のインクルーシブ教育システム構築モデル地域に指定された。茨城県において特別支援教育の先導的役割を果たしていくことが期待される。

オリジナルティーチングプランは、教職員の特色ある教育活動プランを支援する事業である。教育現場での実際のニーズに応える教育を支援するもので、プランの実現が大切なことはもちろんであるが、物事を積極的に進めようとする教職員の目的意識と実行力の向上につながることに一層大きな意味がある。これまで以上に推進していただきたい。

●新しい時代に対応した教育の推進

外国語指導助手(ALT)が全国に先駆けて全校に配置され、小学校での英語活動、中学校での英語学習を通して国際理解と英語力の向上が図られた。「ALTと遊ぼう」や「English in Action」などを企画したり、英語検定を推奨することで、児童生徒が外国語に触れる機会を増やし、英語への関心が高められた。ALTは授業以外にも様々な形で児童と触れ合う機会を持っており、ALTの配置による教育効果が非常に大きいと各学校で喜ばれている。

情報教育では、情報手段に慣れ親しみ、適切に活用する能力を身につける教育が行われている。一方で、情報社会において情報モラルについての教育は、一層大切である。「守谷市小中一貫情報教育指導計画」が作成されたので、今後は、指導事項が実際に児童生徒の身に付いたものとなるよう、教室での具体的な取組を推進していただきたい。

教育のICT化については、大きな可能性を感じる。各学校では、ICT機器をどのように活用するか、相互研修や実践を行って研究を重ねている。教員がICTを授業改善のための補助技術として位置付け、自らの指導力を高めるために活用することを期待している。個々の教員の指導力を具体化してICT教育の効果を上げるためには、専門家としての「ICT支援員」が教員をサポートする体制が必要かとも思われる。

「環境教育の推進」が一つの柱となっていることは、大変好ましい。環境に対する豊かな感受性を育む自然体験や学校内外での清掃活動が守谷小や御所ヶ丘中などで行われた。また、黒内小学校では、年間カリキュラムの中に環境分野の体験活動を取り入れている。身の回りのごみがどのようにして発生し処理されているかを知る体験学習などは環境教育として非常に効果的であり、そのような実践的な環境教育が幼少時から継続して行われることを願っている。

キャリア教育としての職業見学や職場体験学習は、生徒の勤労観・職業観を育てるのに有効であり、地域の人々や事業所の協力を得て行われている。松ヶ丘小学校、けやき台中学校などで行われた職業見学や職場体験学習からは、地域全体が生徒のキャリア教育を後押ししている様子がうかがえて、大変心強い。

●開かれた学校づくりと学校・家庭・地域等の連携

学校行事や児童生徒の活動状況を伝える各学校のホームページと学校だよりが充実しており、学校から家庭・地域社会への情報発信に大きな役割を果たしている。また、メールマガジン配信システムの利用により、緊急時の情報提供も担保されていることは好ましい。

各学校が毎年行って公表している学校評価は、生徒や保護者の考えや意見を取り入れようとする教職員の真摯な姿勢の現れであり、大いに価値がある。評価の結果を次年度に反映させて学校改善に役立て、改善された点を評価者に知らせるというプロセスができることで、学校評価の価値は一層高まるであろう。

各小中学校は、出前授業や合同演奏会など特色ある取組を行い、小中連携・交流を推進している。また、愛宕中の保育実習、郷州小学校の幼少連携、松前台小学校の小高交流など、既に保育所・幼稚園と高校も含めた交流が始まっており、守谷市が目指す保幼小中高一貫教育の本格実施に大きな期待が持てる。

3 給食センター事業

「トラブルがないのが当たり前」という事業において、実際にトラブルなく、安定した学校給食を提供していること自体が高く評価できる。調理業務従事者の衛生管理、調理機器・用具の消毒の徹底、食材の安全確保など、栄養管理と安心・安全な給食のための日常的な努力の結果である。

献立作成においては、食物アレルギーを持つ児童生徒に適切に対応しており、また、子どもたちからの現場の声を反映するよう心がけている。

栄養教諭が学校を訪問し、食に関する指導を行って、児童生徒にとって望ましい食習慣の定着を図っている。これは、児童生徒の栄養過剰の防止や生活習慣病の予防にもつながる取組である。

リスクの少ない設備と器具を導入する給食センター大規模改修工事の設計が平成25年度に完了し、平成26年度に工事が開始される。この改修工事により、調理環境が改善され、一層安全な衛生管理の下で児童生徒に給食が提供されると期待できる。

4 生涯学習・社会教育事業

中央公民館をはじめ、各公民館のホールや集会所を利用したサークル活動が活発に行われていることから、市民の自主的な学習活動を支援する事業が順調に進められていることがうかがえる。公民館講座・教室も市民の生涯学習のきっかけ作りとなっている。公民館運営は指定管理者が導入され、民間のノウハウを生かして行われているが、公民館事業、特に公民館講座・教室がどのように改善されるか、注目される。

市民のスポーツ活動の場として学校体育施設が解放されることは、市民にとって大変有難いことである。実際に多くのサークルに活動の場として利用され、喜ばれている。学校教育に支障のない範囲で、市民の要望に積極的に応える姿勢を続けていただきたい。

5 図書館事業

中央図書館と4地区公民館図書館は連携し、「利用しやすい図書館」を目指して活動している。図書館資料の貸出しのほか、各種サービスを通して市民の教養の向上に貢献している。これらは1日当たりの来訪者が735人、市民一人当たりの貸出し冊数が県内でトップという実績として表れている。

各学校に図書館奉仕員を配置して読書環境を整備するなど、学校図書館の運営を支援している。市民との協働では、リサイクルブックフェアやブックスタート事業などが好評で、市民が図書館を利用するきっかけ作りにもなっている。

市民一人当たりの資料費は県内トップであり、教育に対する守谷市の熱心な姿勢がうかがえる。これにより、幼児向けから高齢者向けまで幅広い資料収集が行われていることは、市民にとって大変喜ばしい。

<総括>

教育委員会の全体評価

守谷市は、学校教育・指導事業に多くの予算を組み、個性的で創造性をもった子どもたちの育成に力を入れている。教育委員会は、学校教育プラン5項目を作成し、各学校における様々な試みを積極的に支援している。各学校は、これらの支援を受け、それぞれ独自の研究・工夫により学校教育プランを推進し、多くの成果を上げている。例えば、守谷市独自の予算で雇用された学習支援ティーチャーの配置により、各学校において子どもたちの生活習慣の確立や学力の向上が図られた。また、少人数授業や習熟度別クラス授業が可能となり、難しいと思われる個に対する教育についても着実に成果が得られている。

各学校の広報活動も活発で、学校行事や子どもたちの様子を家庭や地域に逐次発信している。保護者、地域住民は、学校支援ボランティアによる子どもの安全確保や市民や地域人材や企業による体験学習の支援などでこれに応えている。各小中学校と保護者、地域住民との協力関係が非常に良好で、子どもたちの健全な育成を願って見つめる市民の温かい目が感じられる。

教育委員会と学校は、保護者や地域と連携をとりながら、学校教育・指導室事業で着実に成果を上げており、給食センター事業、生涯学習事業、図書館事業を含め、平成25年度の教育委員会の施策・事業は、全体として申し分のない充実した取組が行われたと判断できる。教育行政は、極めて効果的に推進された。

先導的な立場にあるものは、常に一步先を見据えた新しい試みが求められる。守谷市の教育はそのような立場にあり、関係する人々は常に改新・改善の意識を持ち続けながら教育目標の達成に向けた努力を続けていただきたい。